

大阪府はダムに固執するのではなく

## 安威川流域の治水向上は ダム建設より流域総合治水、 堤防強化、護岸整備を優先せよ!

### 「脱ダム宣言」の一節

よしんば、河川改修費用がダム建設より多額になろうとも、百年、二百年先のわれわれの子孫に残す資産としての河川・湖沼の価値を重視したい。

「大阪安威川の治水を考える流域連絡会」 専門委員

畑中孝雄（日本共産党前市議）

2018. 10. 1

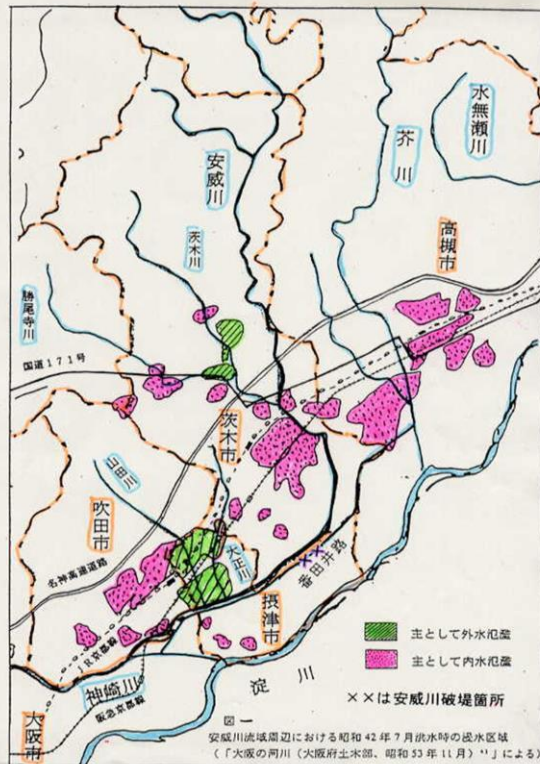
①

安威川ダムも計画から48年。大阪府は河川整備委員会の審議を経て、「ダム建設が妥当」との方針を決定し、国も事業継続を承認しました。しかし国も大阪府もダム万能の考え方から脱却して、際限のない自然現象による想定を超える洪水に対しても、被害を最小限に食い止めるために、破堤による壊滅的な被害の回避と軽減を流域全体で取り組む「都市型総合的水害防御計画」への転換を行うべきです。大阪府は安威川本川の治水対策として、5つの方法（①ダム案、②河道改修案、③河道改修＋遊水池案、④河道改修＋放水路案、⑤河道改修＋流出抑制案）を比較検討して、コスト面でもダムが最も低価格としていますが、私達がかねてから主張している耐越水堤防や決壊しづらい堤防など堤防強化＋河川改修案については方策の検討すらされていません。専門家は「安威川本川は堤防補強が実施されれば、百年に一回規模程度の洪水は流下できる。一方、茨木川など支流の改修が遅れている。したがって本川の堤防補強、支流の改修および堤防補強を優先するのが望ましい」と述べています。また大豪雨時のダム貯水池周辺斜面崩壊で下流域大洪水の心配もあります。さらに東日本大震災と同じ規模の地震が起きた場合、大阪府下でも茨木市を含む約16の市が津波の被害にあうと指摘されています。今からでも決して遅くはありません。世論の力で、安威川ダム計画を一旦凍結をして、本川と支川の堤防強化と河川改修による治水対策を検討させましょう。

# 安威川流域周辺における

## 昭和42年7月

### 洪水時浸水地域



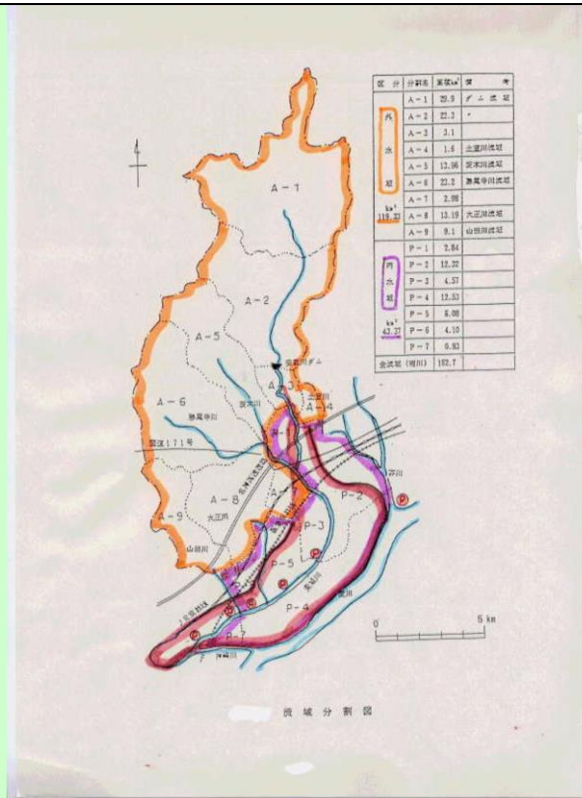
大阪府の資料から

②

安威川ダムを一旦凍結をして、「本川と支川の堤防強化と河川改修による治水の方策を検討せよ」と求める第一の理由は、上流のダム建設による治水ではなく、流域全体の総合治水こそ、下流の都市型水害防止にもっとも有効だからです。ところで大阪府のダム計画書では、「昭和42年7月豪雨により、安威川は宮鳥橋上流左岸で、破堤するなど浸水家屋25,240戸など大きな被害を生じた」としていますが、これは被害の原因を正確に表現したものではありません。この図は、昭和42年の北摂大豪雨時に浸水が発生した地域とその原因を表したものです。赤く塗った部分はすべて、低地の排水不良による浸水即ち内水によるもので、安威川は××印の地点で流木により決壊し、横を流れる番田川の方へ崩れ落ちましたが、決壊による直接の浸水は全くありませんでした。また緑に塗った部分も支流の茨木川、山田川、正雀川などの溢水によるものです。

# 安威川流域分割図

- 紫色の地域は安威川が天井川のため、降った雨が下水道管網を経由して、雨水ポンプ場より、安威川に排水する地域Ⅱ内水域という
- 橙色の地域は降った雨が自然に安威川本川に排水できる地域Ⅱ外水域という
- 茶色の地域は流域の浸水予想区域



③

これは安威川流域の治水を考える上で、もっとも大事な、流域の状況を表したものです。安威川流域の全体面積は約163平方キロメートルですが、自然に安威川に雨水を排水できる地域は上流の120平方キロメートルで、下流は天井川で43平方キロメートルは自然には雨水を、安威川に排水できず、下水道を通じて行っている地域です。したがってこの地域に、時間雨量50ミリ程度以上の雨が降ると、内水による浸水が予想されます。したがって安威川流域の治水を考える上では、河川の溢水と内水による浸水との両面から考える必要があります。



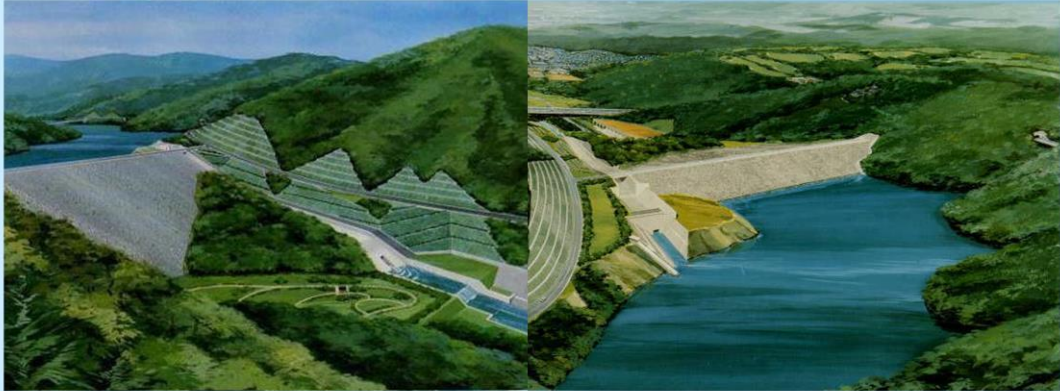




# 安威川ダム完成予想図

下流から

上流から



□型式-ロックフィルダム □堤高-76.5<sup>メートル</sup>  
□堤頂長-337.5<sup>メートル</sup> □総貯水量-1800万<sup>m<sup>3</sup></sup>

⑥

安威川ダムの完成予想図です。ダム湖の面積は甲子園球場の20倍、約80<sup>ヘクタール</sup>で、すでに茨木市生保（しょうぼ）地区など70戸の住民と広大な農地の立ち退きが強制されました。型式はロックフィルダム、ダムの堤の高さは76.5<sup>メートル</sup>、堤の頂点の長さは337.5<sup>メートル</sup>、貯水量は1800万立方<sup>メートル</sup>、規模としては中の下の大きさです。

安威川ダムの経費と財源構成(平成27年度末)(治水100%利水8%)

・ダム工事—総額約1,370億円(852億円支出)

	国	大阪府-411億円 357億円支出	
	直接補助分	治水のための負担分	利水のための負担分
負担額及び既支出額	959億円 579億円支出	411億円 345億円支出	<del>34億円</del> <del>33億円支出</del>

・水源地域整備計画費—総額約234億円(98億円支出)

土地改良、治水、道路、下水道、宅地造成、林道、スポーツ施設等、消防施設

負担額	国 直接補助分	大阪府 負担分	茨木市他4流域市 負担分
	65億円	118億円	51億円

浄水場施設整備用地費 17億円支出(茨木市に無償供与)

ダム建設に固執してきた

責任は重大です

⑦

安威川ダムの総事業費は国と大阪府と流域市が負担しますが、関連の工事を含めると約1,370億円程度といわれ、すでに27年度末でダム本体工事費等と用地費や道路など関連工事費等で約852億円支出しています。ただし水道事業からの撤退で浄水場整備用地費17億円はすべてムダな投資となりました。また利水と治水の目的を併せ持つ、多目的ダムとしての安威川ダム工事の場合は約1,370億円の80%近くが、最終的に国の負担となりされてきましたが、治水中心のダムに変更された場合は過去の支出も含めて大阪府の負担は増えるとされています。



## 汚染が進む安威川流域下流部



⑧

みなさんは安威川を直接ごらんになったことはおありでしょうか。

ご存じのない方に、安威川の下流部、中流部、そして上流部についてご紹介したいと思います。

下流部は残念ながら、幹線道路や新幹線に取り囲まれ、下水道処理場や事業所などから排出される汚水で相当汚染されています。しかも上流からの土砂が河床に堆積し、極端な天井川となっています。



## 渡り鳥の休息地 安威川流域中流部



⑨

中流は一変して、渡り鳥のすみかともなっており、また釣りマニアの絶好の釣り場となっています。また河川敷は散策路として整備されており、市民の憩いの場となっています。

## 府民の憩いの場 安威川流域上流部



⑩

上流はかつてはキャンプや水遊びのメッカとして、人気スポットになっており、とくに龍仙峡は多くの市民から親しまれてきました。今は上流の採石場などからでる濁水で、魅力は半減しています。

# 安威川ダム建設予定地は 約2千種の生物が生息する 自然の宝庫です



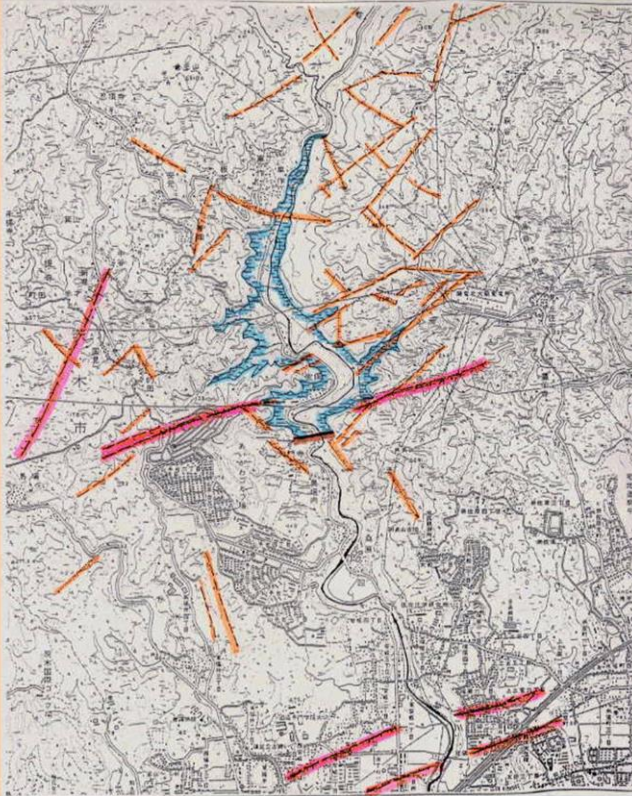
とくに貴重な種類として鳥類ではオオタカ、両生類ではオオサンショウウオ、ほ乳類ではニホンリス、昆虫ではゲンジボタル、オオムラサキ、水生動物ではアジメドジョウ、植物ではフジバカマなどです。

## ⑪

安威川ダムを凍結して、「ダムに頼らない、利水と治水の方策を検討せよ」と求める第二の理由は、大規模な環境破壊になるからです。「脱ダム宣言」では、「よしんば、河川改修費用がダム建設より多額になろうとも、百年、二百年先のわれわれの子孫に残す資産としての河川・湖沼の価値を重視したい」と述べています。ご存じのように、安威川ダムの建設予定地は約2千種類の生物が生息する自然の宝庫です。特に貴重な種類としては、鳥類ではオオタカ、両生類ではオオサンショウウオ、モリアオガエル、ほ乳類ではニホンリス、昆虫類ではゲンジボタル、オオムラサキ、水生動物ではアジメドジョウ、植物ではフジバカマなどです。力を合わせて、大阪の貴重な里山の自然を守りましょう。



## 安威川流域および周辺 地域における空中写真判 読によるリニアメント（線 状模様）分布図



⑫

もう一つ、安威川ダムを凍結して、「本川と支川の堤防強化と河川改修による治水の方策を検討せよ」と求める理由に、ダムサイトとダム湖周辺の活断層の存在など、地質の問題があります。ダムサイト付近には大小24本の断層の存在が確認され、活断層との関連が危惧されています。さらにダム湖周囲には馬場断層とともに、無数の断層が十文字に存在するなど大変複雑な地層の特徴をなしています。大阪府は堤体盛立工事は2017, 18年と事実上中断し、堤体基礎地盤調査検討とグラウチング解析に更に4年間もかけるとしています。



# 安威川ダムとダム湖予定地周辺における土石流危険渓流分布図

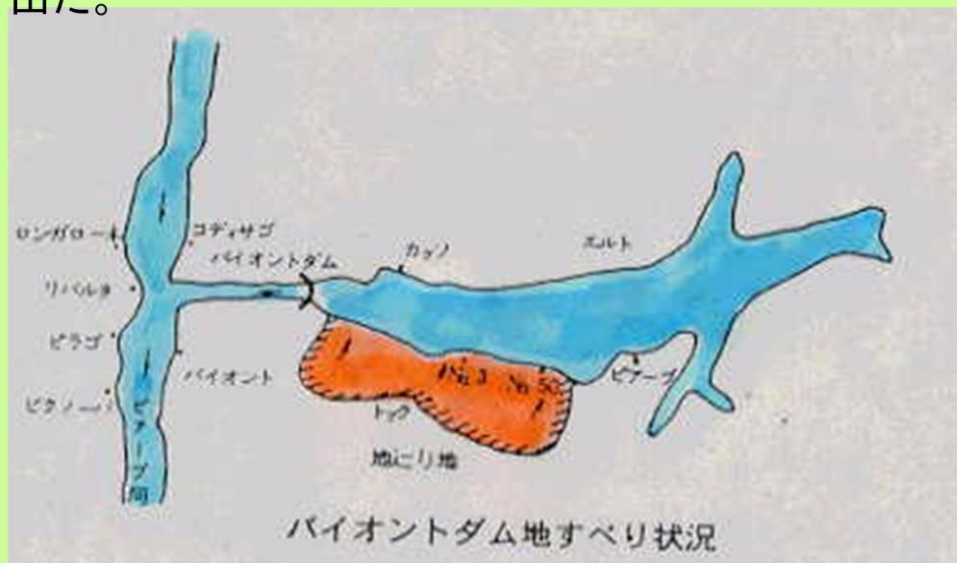


ピンク色は危険度A、オレンジ色は危険度B

## ⑬

東日本大震災では福島県須賀川市藤沼ダムが決壊して、死者4人、行方不明3人の大災害となりました。2011年12号台風では紀伊奈良山地で、多数の斜面崩壊が発生しました。安威川ダム湖予定地周辺には多数の土石流危険渓流と2箇所市の指定地すべり危険箇所が分布しています。土石流危険渓流のピンク色は危険度Aで、オレンジ色は危険度Bです。こうした地質的に問題がある地域にダムを建設すれば、豪雨時や地震時に土石流が発生する可能性は否定できません。平成4年度の大阪府の調査でも、「貯水池周辺斜面地で雨水により斜面の安定性が損なわれたり、貯水により山体の水位が上昇し、斜面の安定性が損なわれる可能性が高い斜面が2箇所ある」と指摘しています。

イタリア北東部の**バイオントダム**で、完成2年後の63年に、ダム湖周辺で巨大な地滑りが発生し、ダムを溢流した水流が下流の村を襲い、**2000人の死者**が出た。



⑭

大規模な地すべりが発生して、安威川ダムの堤体を越流すれば、ダムに貯水されている大量の水が洪水となって、下流の茨木市、高槻市、摂津市、吹田市、大阪市域などを襲うこととなります。

たとえばイタリアのバイオントダムのダム津波の例では、地すべりの土砂がダム湖に崩れ落ち、多量の水が堤体を越えて下流を襲い、死者二千名をこえる大惨事となりました。国内でも秋田県の尾去沢(おさりざわ)鉾山ダムの崩壊で315人が犠牲となった歴史など死者が出た例が5件あります。最近でも奈良県の大滝ダムで試験湛水時に大規模な地すべりが発生して、集落の全戸が移転を余儀なくされる例が出ています。

最後まで、ご覧いただき、ありがとうございました

ご意見とご感想をお寄せ下さい

# 安威川流域の治水対策は本川と支川の 総合治水、堤防強化と河川改修で 終

〒567-0034 大阪府茨木市中穂積2丁目3-33  
大阪安威川（あいがわ）の治水を考える流域連絡会

☎TEL 072-624-5461

☎FAX072-657-7669

☎E-mail takao\_hatanaka@nifty.com

☎HOMEPAGE <http://aigawachisui.sakura.ne.jp/>

⑮

最後まで、ご覧いただきありがとうございました。アメリカではすでに「ダムのような環境に及ぼす影響の大きな事業を行おうとするときは、環境影響コストを上回る事業効果を上げることが必要」としています。日本ではまだ環境影響コストを過少に、事業効果を過大に評価して、事業が強行される例が続いています。大阪でも、全国でも、「ダムに依存する治水対策を転換せよ。地域・生活密着型公共事業に転換せよ」の声を上げようではありませんか。安威川ダム計画を一旦凍結をして、本川と支川の堤防強化と河川改修による治水の方策を検討させるため、ご協力をよろしく申し上げます。